

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の状況課題	<p>○単元末テストから                      &lt;平均点とC層（60点以下）&gt;                      【国語】1～6年平均88点 C層1%                      【算数】1～6年平均87点 C層2%                      【理科】3～6年平均83点 C層1%                      ・どの教科も、昨年度と比べてC層が減少している。                      ・観点別にみると、国語は「言語事項の定着」が低くなっている。                      ・算数、理科は「思考判断・表現力」が低い。</p> <p>○大分県学力定着状況調査から                      ・国語、算数、理科とも目標値をすべて上回っている。                      ・国語では、「話す・聞く」「書く」「言語事項」の正答率が、県平均をわずかに下回っている。                      ・算数・理科では、すべての領域において、目標値、県平均を大きく上回っている。</p>	<p>○伝え合いアンケートから                      ・授業中、ペア・グループの人に「自分の考えを伝えている」と考える児童                      94.6%                      ・授業中、みんなの前で「自分の考えを伝えられている」と考える児童                      81.3%                      ・授業が終わって、「これからは～しよう」という考えがもっている児童                      97.8%</p> <p>○学習規律の徹底では                      ・学習用具を机上に準備しチャイムと同時に授業を始めることが、子どもを落ち着かせて学習に向かわせることにつながっている。しかし、姿勢の悪い子が少なくない。</p> <p>○家庭との連携では                      ・子どもは早寝をする習慣が身についていると考える保護者75%、児童77%                      ・子どもはメディアの使用についてきまりを守っていると考える保護者77%、児童88%</p>
指導の状況課題	<p>○国語科の「言葉の特徴やきまりに関する事項」の指導の徹底を図る                      →朝のチャレンジタイムや授業の導入・ふり返りで漢字・視写・群読・文章題の読み取りの継続指導</p> <p>○算数科の「速く正確な計算力」がつくよう各学年の指導の徹底を図る                      →計算力の定着・向上のため朝のチャレンジタイムで継続指導                      →授業開始時に短時間でできる復習問題の実施                      →C層への補充指導（放課後や空き間等を使った習熟指導）</p> <p>○理科では、復習プリントや自学などで基礎的・基本的知識を定着させるとともに、目的や考察を明確にして実験をさせるなど、技能・思考判断力をつける</p>	<p>○「1時間完結型」授業の取組の徹底                      ・めあて、課題、まとめ、振り返りを明確に位置付けた授業の実施（国語・算数・理科を中心に）</p> <p>○学習規律の徹底                      ・忘れ物0、チャイム着席。「聞く・話す・発表」などの学習ルールの定着                      ・ノート指導、名前を呼ばれたら返事をする</p> <p>○家庭との連携                      ・「家庭学習の手引き」を利用した児童への指導と保護者啓発                      ・年3回の計画メディアの取組</p> <p>○読書習慣の定着                      ・多読賞の設定、図書館利用時間の確保                      ・本わかタイム（読み聞かせ）                      ・夏季休業中の図書館開館</p>
目指す児童生徒像	<p>○単元末テストで国語、算数、理科の平均点が86点以上、C層（60点未満）4%未満</p>	<p>○授業中、みんなの前で「自分の考えを伝えられている」と考える児童                      85%以上                      ○決められた時間勉強していると考えられる児童                      90%以上                      ○家で決まりを守ってメディアを使用する児童                      90%以上</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の具体的な取組</p>	<p><b>①授業改善の取組</b></p> <p>○学習規律の徹底⇒「今月の学習のめあて」で学校全体で取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机上の準備とチャイム着席</li> <li>・けじめのある授業のあいさつ</li> <li>・椅子の座り方</li> <li>・話す時間聞く時の基本的ルール</li> </ul> <p>○3つの授業改善と主体的・対話的で深い学びの実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「1時間完結」型授業の徹底 &lt;めあて、課題、まとめ、振り返り&gt;</li> <li>・板書の構造化（学習の振り返りができる板書）、板書とノートの一体化</li> <li>・一斉、個別などの学習形態を工夫し、個に応じた指導の徹底</li> <li>・問題解決学習における課題の見出しから解決に至るまでの一連のプロセスの中で、思考・判断・表現力の育成を意識した学習活動の展開 特に理科では実験の工夫と理科学語の習熟指導</li> </ul> <p><b>②その他の学習指導の取組（補充指導等）</b></p> <p>○ノート指導の徹底及び「滝小ノート検定」の実施</p> <p>○月1回のコミュニケーションスキルを養う「フレンドタイム」の実施</p> <p>○評価規準をもとに、単元末に子どもの定着度評価の実施</p> <p>○学習部会（週1回）や教科部会による指導内容の充実</p> <p>○学年末に標準学力調査実施（4年生）とフォローアップシートによる弱点克服</p> <p><b>③学習状況改善の取組</b></p> <p>○家庭学習の定着を図る一つの方法として、テレビやゲーム等メディア使用の時間の見直しを指導</p> <p>○自分なりの具体的な目標を立て、目標に向かって粘り強く努力できる生活態度の確立</p> <p>○教科および質と量のバランスを考えた家庭学習の準備</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">家庭・地域との協働</p>	<p>○家庭との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各家庭に、年度当初「家庭学習の手引き」を配布し、9年間を見通した家庭学習のあり方と習慣化のために利用してもらおう。 （毎日の学習時間＝学年×10＋10分の達成）</li> <li>・各家庭に、「計画メディアカード」を配布し、その活用を通して規則正しい生活を身につけるきっかけにしよう。</li> </ul> <p>○地域との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学習ボランティアによる体験学習と本わかタイム（読み聞かせ）の充実</li> <li>・授業公開及び地域との交流（年間4回の学校公開日を設定）</li> <li>・体験学習等で地域に出かける活動や、地域の人と交流を持つ活動の充実</li> </ul>